



学校だより

夢中がいっぱい左近山の子

～つながる学び（知）・つながる仲間（徳/体）・つながる地域・未来(公/開)～

令和5年10月30日

Sakonama
横浜市立左近山小学校
11月号

「時代とともに」

校長 徳留 勇

先日は授業参観にご来校いただきありがとうございました。先生の質問に勢いよく手を挙げ、自分の意見を言う姿。友達の意見を聞き、うなずいたり、反対意見を言ったりしてグループで話し合う姿。元気に歌を歌ったり、学習の成果を発表したりする姿など、子どもたちの日々の頑張りを感じていただけたのではないかと考えております。

そんな中、参観者の皆様の目を引いたのは、授業中のタブレット端末の活用だったのではないのでしょうか。「時代が変わったな」「すごい」などという声もちらほらと聞こえてきました。タブレット端末が導入されて3年、今では当たり前前のツールとして、日々の学習で登場しない日はありません。

今まで図書室やPCルームに移動していた調べ学習は、手元にあるタブレット端末で必要な資料を検索し、課題の解決に向けて、自分のペースで学びを進めることができるようになりました。

歌を歌っている姿を撮影して客観的に自分の歌声を聞いてみたり、グループごとに音読劇の様子を撮影して、何度も再生しながら友達と話し合ったりすることもあります。たまに校長室に来て行われるインタビューは、必ず子どもたちに撮影されるので、こちらが緊張をしてしまうくらいです。

自分の考えをタブレット端末に打ち込めば、みんなの意見が瞬時にテレビに映し出されたり、アプリを使ってクイズ形式で学習をおさらいしたりする場面は、まるでクイズ番組のようです。

思考ツールを使って自分の意見を友達のタブレット端末と共有し、画面を操作しながら話し合いをする姿は何とも近未来的です。

また、調べたことや取材したことを簡単に動画にまとめたり、タブレット端末を使ってプレゼンテーションをしたりする姿に「子どもたちってすごいな」と素直に感心させられたりもします。

学校の中に一人一台のタブレット端末が導入されたことで、学び方や表現の仕方の可能性が大きく広がりました。もちろん何でもかんでもタブレット端末を使えばよいというものではありません。どんなに資料や映像が発達したとしても、実物を見たり、本物に触れたりした時の感動にはかないません。絵を描いたり、新聞づくりをしたりというアナログ的な活動のよさも経験すべきだとも思います。

でも、時代が変わり、社会が変わり、ツールも変わった今、我々教員もまた、今までの授業スタイルに甘んじることなく、子どもたちが主体的に楽しく学び続けられるよう、授業の方法を学び、工夫し、進化させ続ける必要があると考えています。

今年で10歳となった左近山小学校。これまでの伝統をいかしつつ、これからも時代とともに変わり続ける姿にご期待ください。

【留守番電話設定】平日 17時15分から翌朝7時45分までは留守番電話を設定しています。